

平成17年度一般会計予算討論

反対討論

高橋博幸

昨年3月議会で町は行財政抜本改革をするとし、その成果品として17年度一般会計当初予算が提案されたが、これは事務事業の見直しに過ぎず、本丸の改革がない。

これは一般の家庭にとえればわかりやすいことである。

お父さんはこの不況で給料が減って暮らしが大変だから子供たちに、お小遣いは減す、塾も減らす、出来れば進学もどうか？と言う反面、お父さんは晩酌もタバコも止めない。

お母さんはブランド物を買ってあさっている。そんな家庭はない。

町民に痛みを、と言いながら調整した予算は依

然として単年度収支は赤字に転換せず、修正案でも単年度収支は依然赤字である。

さらに細かく見れば、将来の介助を必要とする児童数の把握もないままに学校の介助員の数を減

反対討論

今村定一

行財政抜本改革の実行年度である本年度予算、3カ年で5億円の削減計画も抜本計画の名のもとでは根拠のない数字と受けとめます。今年度2億7千万円の削減も裏を返せば町債1億・基金取り崩し1億という現実である。

真の抜本改革なら収支バランスの取れた均衡予算の現実に向けての年次計画を早期に着手し、ト

らしてしまった。

総合的判断をすると、町の行財政抜本改革に対する取り組み姿勢が極めて不十分と考えるので平成17年度一般会計予算に反対する。

アップや議会の給与削減だけではセレモニーで終わってしまう、現実に目をつけ職員すべてに広げ、計画実現年度まで庁舎・町民一丸となって取り組むことが真の改革であり、

独立できる町づくりであると確信しています。担当課個々の取り組みは評価するものの、指揮官である町長の町に対する姿勢・手法に異議を唱え、再考を求めて本議案の反対討論といたします。

他に、反対討論

田村 計久

賛成討論

井口智晴

私は、昨年度の予算議会に於いて、賛成討論を行いました。その内容は町長が10月までに財政立て直しの為の抜本的改革案を示すと云われた事を信じ賛成した。しかし現実是一年かけて事務事業の見直しは行ったが真の意味の改革には程遠い物

賛成討論

池田 宏

総額63億1千万円の17年度一般会計予算審議が行われました。豊であった我が町の財政でありましたが税収の減収、及び滞納額増高20億円、観光事業（ロープウェイ）の赤字に対する繰り入れ22億円の増高などで大変な財政難をきたし町民の負

であった。従って今年度は反対して少しでも早く財政改革に取り組み合併しない町づくりを行うべきと考えた。しかし先般行われた町長への総括質問で町長16年の集大成としての改革案を問うた処、行政改革推進委員会を中心に積極的に、且つ早急に取り組む事を約束されたので今回は再度町長を信じて賛成する事に致します。

担増等にも影響がでてくることは誠に残念であります。答弁だけに終わる行財政改革でなく実行が重要です。今後の財政逼迫に対処する為清掃費の委託はやめて執行部と職員で削減するよう求めます。一般会計から繰り入れが続いている観光事業（ロープウェイ）は今年秋までに民営移管の実行をする事を付して賛成の討論と致します。